

第4回 北大阪急行線延伸技術検討会 議事要旨

1. 日時

平成27年12月24日(木) 午後2時00分～午後4時30分

2. 場所

C I V I 北梅田研修センター(大阪市北区芝田2-7-18 ホーエックス梅田新館5階)

3. 出席者

(座長)

一般財団法人地域地盤環境研究所 代表理事 足立 紀尚

(構成員)

一般財団法人災害科学研究所 理事長 松井 保

京都大学大学院教授 木村 亮

京都大学教授 澤田 純男

独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構 鉄道建設本部大阪支社長 蓼沼 慶正

大阪市交通局理事兼鉄道事業本部長 塩谷 智弘

(オブザーバー)

大阪府都市整備部交通道路室都市交通課長 山田 俊英

(代理出席:大阪府都市整備部交通道路室参事 尾花 英次郎)

大阪府池田土木事務所長 武友 憲重

箕面市地域創造部担当部長 仲井 信雄

阪急電鉄株式会社都市交通事業本部都市交通計画部部長 奥野 雅弘

北大阪急行電鉄株式会社常務取締役延伸事業部長 神谷 昌平

(欠席)

京都大学大学院教授 竹村 恵二

以上、構成員7名うち1名欠席

4. 議 事

(1) 報告事項 1-1 地質想定断面について

- 今回の追加調査により大阪層群の標準層序と同様の地層層序、構成時代と矛盾のない結果となったため、地質想定断面は妥当である。
- 地下区間 6k514m(ホーリング H25Bor-2)付近の dt 層 (資料: 1-1 頁) について、dt 層の深さ、土質の性質(P 波速度、地下水位)を確認すること。
- 大阪層群北側に海成粘土層 (資料: 1-1 頁) があるが、海成粘土は、鋭敏比が高いことが多いため、施工時にできるだけ乱さないよう留意すること。

(2) 報告事項 1-2 新箕面駅基礎杭の支持形式について

- 新箕面駅付近の基礎杭 (資料: 1-3~1-4 頁) については、経済性に優れ、施工時における支持層深さの変更による杭長変更などの危険性がない摩擦杭の採用が妥当である。
- 場所打ち杭 (オールケーシング工法) の経済性検討時の積算と施工方法が合致していることを確認の上、設計を進めること。

(3) 報告事項 1-3 断層対策について

- 小野原断層部の開削区間 (資料: 1-5 頁) については、提案の考え方は妥当である。
- 野畑断層部の高架部 (資料: 1-6 頁) については、3 径間連続 PC 桁は妥当である。

(4) 報告事項 1-4 耐震設計 (地震動観測、深層反射法、微動アレイ、詳細地震動作成) について

- 耐震設計 (資料: 1-7 頁) については資料の流れに沿うとともに、澤田先生の意見をいただきながら検討を進めること。

(5) 検討事項 2-1 高架区間 (千里川~新箕面駅) の基礎杭の支持形式について

- 摩擦杭であっても (資料: 2-1-1 頁)、一つの構造物内で杭先端の土質条件をそろえ、全体的にバランスがとれるようにすることが望ましい。なお、P14 橋脚と Rc15 高架橋間など、基礎形式が異なる構造物間の沈下量の差に留意して、設計、施行、保守の観点から検討すること。

(6) 検討事項 2-2 開削トンネル区間の土留め方法について

- 神戸層群の開削土留め区間 (資料: 2-2-1~2-2-3 頁) については、透水係数が非常に小さいことなどから、親杭横矢板工法は妥当である。
- 杭の根入れ長さ (資料: 2-2-5 頁) について、左右非対称となっている箇所は、同じ長さであるべきである。
- 新船場北橋の仮受け方法について検討すること。
- 開削工法区間北側の土留めを本体構造物の設計に活用できないか検討すること。

(7) 検討事項 2-3 シールドトンネル区間の想定される課題について

- シールド工法 (資料: 2-3-1 頁) については、泥土圧式シールド工法は妥当である。
- ビット構造の選定 (資料: 2-3-3 頁) にあたっては、同様な土層を掘進した実績の情報を

収集し、施工時の参考とすれば良い。

- 既設躯体へのシールド到達方法（資料：2-3-3 頁）については、施工時に到達部の埋め戻し土の土質性状を確認の上、補助工法の工法選定の深度化を行うこと。
- 既設構造物施工時の矢板等の存置について、施工時に十分留意すること。

以 上